

本年度の取組

1 学校設定教科 グローバルスタディーズ

SGH の取組の核となる学校設定教科グローバルスタディーズ（以下 GS）では、人文科学・社会科学分野の先進的な教育課程の開発、並びに実践を行うことを意図し、複数の教科で連携した授業や社会問題の解決を目指し生徒が主体的に学ぶ授業を実施している。知識を身につけることにとどまらず、課題研究、国際協働学習、社会貢献活動を3つの柱に、幅広く生徒の生きる力を培うことを目指している。生徒たちが、世界の問題を教室で学び知識や技能を身に付け、大学・企業・国際機関の専門家の方々から講義やワークショップを受けることで視野を広げ、さらに、海外の高校生と意見交換をし、共に考え、実際に体験することで考えを深め、未来に向かって行動することをめざす葺合高校独自の教科である。

（1）科目構成

GS は国際科生徒が3年間を通じて学ぶ教科であり、その特徴から A・B・C の3つの分野に分かれる。知識型の GSA、ワークショップ・研究・インターンシップ・フィールドワークからなる実践型の GSB、ディベート・模擬国連参加などで学びを言語化し表現力をつけ、リーダーシップの素地を養うリーダー育成型の GSC から成り立つ。各学年で GSA、GSB、GSC の各科目が連携し、他の教科・科目が支えることで、生徒は効果的に知識や技能を身につけることができる。3学年にわたって、7種類、総計 12 単位である。

1 学年	GSIA(3 単位)、GSIB(1 単位)
2 学年	GS A(1 単位)、GS B(2 単位)、GS C(選択：2 単位)
3 学年	GS B(1 単位)、GS (選択：2 単位)

表1 教科グローバルスタディーズ

（2）各科目の特徴

1 年時

（ア）GSIA

教育課程の特例措置として、「現代社会」より1単位を拠出し3単位で設定。地歴公民科、国語科、英語科教員が連携して担当し「世界の現状とは」をテーマに各教科の特性を生かした授業を展開している。

地歴公民分野（GSIA-S）では世界の様々な地域、国々の現状を多角的な視点で学習する。国語分野（GSIA-J）では論文を読む中で課題発見の方法や調査・研究の方法などについて学ぶ。英語分野（GSIA-E）では地歴公民分野と連携しながら英語で学び、発表活動に繋げていく。2 学期後半からは国語分野と連携して4人グループで研究テーマを決定しリサーチを進める。

（イ）GSIB（総合的な学習の時間）

産・官・学より講師を招き、講義・ワークショップ等を通して、様々な分野における知識を深め、多角的な視点から物事を分析する力を養う。また学年末に実施するフィリピンフィールドワークに向けアテネオ デ マニラ大学より講師を招聘し、事前研修を実施する。

（ウ）コンピュタリテラシー

教育課程の特例措置として、「情報の科学」より1単位を拠出し設定。GS における発表等の活動を支える科目とし、コンピュータの操作、インターネットによる情報収集の方法、文書作成法、プレゼンテーションソフトの活用法などについて学習する。

2 年時

（ア）GS A（総合的な学習の時間）

フィリピンフィールドワークの報告会、専門家の講義、課題研究への助言をもらうワークショップやディスカッション等を通して学習を深める。

(イ) GS B

口答発表や英語論文作成を行う課題研究の中心科目である。リサーチペーパーの書き方に始まり、SDGs の 17 の目標より絞り込んだ 5 つの分野から、各自が関心のあるテーマを選び、課題研究に取り組み、論文作成を行う。国際協働学習として、次年度実施の「四大陸高校生サミット」に向けた参加各国への SGH 提言ツアーや台湾修学旅行時のプレゼンテーション・ディスカッション準備にも取り組む。

(ウ) GS C (国際科選択科目)

地歴公民科教員、英語科教員、ALT による英・日 2 カ国語のチーム・ティーチングである。地歴公民科教員主導の講義により知識を深め視野を広げた上で、英語科教員、ALT 主導のプレゼンテーション・エッセイライティング・ディベート活動へと繋げていく。

(エ) 日本文化紹介

国語科・地歴公民科・芸術科(美術)・英語科・情報科教員が担当。日本の古典文化、美術や建築等に関するリサーチを行った後、日本語や英語でビデオの作成を行い、発表をする。

3 年時

(ア) GS B (総合的な学習の時間)

「四大陸高校生サミット」に向けたプレゼンテーションの準備、企画・運営に関わる科目。共同宣言の実現に向けて活動する。NPO 法人フキックスコルプスの継続と運営にかかわる。

(イ) GS C (国際科選択科目)

「四大陸高校生サミット」に向けてプレゼンテーションの準備、企画・運営を行う。また、終了後、振り返りを実施し、記録冊子・ビデオの作成に取り組む。さらに姉妹校生徒・教員来校時の日本文化紹介を行う。

今年度は最終年度であるので、この 5 年間の取組の変遷を振り返りたい。

1 年目は、各科目担当者が学習目標に合致するように教材を集め、授業を組み立て、指導し、振り返りを行なった。2 年目には、1 年生の GSIA においては、前年度の学習内容を吟味してより深い知識と技能が身に付くように改良を加えた。2 年生対象の GSIIB では、試行錯誤を繰り返しながら担当教員で話し合いを重ね、英語で本格的な課題研究に取り組んだ。3 年目は、1 年生対象の GSIA、GSIB、2 年生対象の GS A、GS B、GS C、3 年生対象の GS B、GS C など GS のすべての科目が揃った。1 年生の GSIA では、11 月頃から教科で連携して課題研究の基礎を指導した。3 学期に日本語、英語とも 80 名全員がポスターやレジュメを作成し発表を行うことができた。2 年生では、個人で課題研究をしたいという希望者が増え、生徒の負担も教員の負担も増えたが、生徒たちの課題研究に関する意欲は総じて高まってきた。3 年生では GS B で模擬国連、KOBE 四大陸高校生サミットの準備とまとめを行い、海外の高校生への日本文化の紹介、NPO 法人の立ち上げに向けての準備を行うことができ、フロンティア学年としての務めは果たせたと考えている。GS 科目にかかわる教員が、1 年目は 3 名、2 年目には 11 名になり、3 年目には 15 名になった。

そして 4 年目は、課題研究を早くから始める必要性を重視し、1 年生の GSIA で 2 学期前半から国語と英語で連携しながら課題研究を進めてきた。同じ課題を二つの言語で取り扱うことで、多角的な視野を持って現状を分析し、論理的に根拠を示しながら改善策を考える思考の流れが、生徒に徐々に定着してきたようだ。2 年生の GSIIB では、2 学期以降オーストラリアや台湾の生徒とのプレサミット、専門家や海外の姉妹校の教員からのアドバイス、SGH 校を中心に行なわれる校外での課題研究発表会などいくつかの体験を通して、生徒のプレゼンテーション力は高められた。課題研究をすることで、生徒の社会への関心、学ぶ意欲、リサーチ力、論理的に考える力、行動力は確実に高まってきた。

5 年目の今年度は、課題研究の段階を踏んで英語で教える指導法に工夫が加えられてきた。多角的に問題の背景を分析し、原因を探り、問題解決の提案するまで、生徒たちが意見交換をし、思考を深める道筋が作られた。今後はさらに GS の担当教員だけではなく、学校全体で教員が探究学習について学ぶ機会を増やし、指導法や教材の開発にも力を入れて、生徒の学びの質が向上するよう努めていきたい。

H30. GS A・GS B授業の展開

神戸市立葺合高等学校

GS A			コンピュータテラシー(情報)	GS B
GS A-S(現代社会)	GS A-E(英語)	GS A-J(国語総合)		
<p>(テーマ):世界の現状とは</p> <p>第二次世界大戦後、大きく変貌を遂げた世界情勢について、その流れと現状を把握する。特に現在、各地域の問題は、グローバル・イシューとなっており、その内容や取り組みなどを考え、グローバルな視野を養う。</p> <p>東アジア</p> <p>日本が位置する東アジア情勢を学ぶ。</p> <p>朝鮮半島の韓国・北朝鮮、中国・台湾の戦前・前後の大きな歴史を把握。</p> <p>各国と日本との関係等を学習。中国については、近年の経済政策や、同国が抱える諸問題、世界への影響力などを考える。</p> <p>東南アジア諸国</p> <p>かつてのカンボジアのポルポト政権、東ティモール独立、ミャンマーのロヒンギャなど、人権問題に関わる問題を中心に取り上げる。</p> <p>「独裁政治」、「移民問題」など、現在の世界の諸問題として重要な問題であり、様々な例からその知識を深める。</p> <p>南アジア諸国</p> <p>かつてのイギリスの植民地政策とインドのあゆみ「カシミール問題」の原因、印パ戦争、現状等を学習。</p>			<p>オリエンテーション コンピュータの起動・終了 コンピュータ室でのマナー</p> <p>タイピング練習 ホームポジションの習得 タイピング速度と正確性</p> <p>インターネット検索 絞り込み方法、フリーズ検索 正しい検索態度の理解</p> <p>文書作成ソフトでの情報発信 (1)Wordの基礎 テキスト作成 デコレーション習得 (2)情報収集 ・Beautiful Japanをテーマに日本の美を海外に伝えるポスター作製のための情報を得る。 (3)Wordの利用 ・A4サイズ1枚のポスターを作成させる。その際、効果的なフォントやコラーのレイアウトを考えさせる。 (4)相互評価</p>	<p>2クラス同時開講</p> <p>オリエンテーション</p> <p>・アンケート(意識調査 -1) ・作文(意識調査 -2)</p> <p>リレー講義</p> <p>神戸市外国語大 野村和宏教授講演 「英語スピーチ・プレゼンテーションの技法」</p> <p>関西学院大 細見和志教授講演 「人権の視点から国際社会を考える」</p> <p>Kobe 四大陸高校生サミット at Fukiai 2018</p> <p>夏休み JICA関西でのインターンシップ 「インフラ整備、各国の政治・経済の現状を知る」</p> <p>インドネシア・ベトナム・ミャンマー・イラク・ニカラグア等からの研修員との交流</p> <p>関西学院大 岩坂二規准教授講演 「グローバル社会と子どもたち」</p> <p>神戸市外国語大 中嶋圭介准教授講演 「課題研究とは？ホップ・ステップ・ジャンプ！」</p> <p>日本イーライ・リリー株式会社 仁井幸江氏、吉川愛季氏、山田将弘氏 ワークショップ</p> <p>ソルトバヤス 井上広之氏講演 「格差・貧困・児童労働 フィリピンでの取組」 同志社大学学生 小澤志穂氏 「フィリピンのソルトバヤスでインターンシップを行なった」</p> <p>大阪府立大</p> <p>SGH 成果発表会</p> <p>神戸市外国語大 中嶋圭介准教授講演 「課題研究 上級編 スタディツアーとは？」</p> <p>フィリピン Ateneo de Manila 大学 Jayeel Cornelio 先生講演 「Young People in the Philippines」</p> <p>フィリピン Ateneo de Manila 大学 Jayeel Cornelio 先生講演 課題研究への助言</p> <p>1年間の活動のまとめ ポートフォリオ完成 自己の変容の振り返り</p>
<p>西アジア</p> <p>「イスラム教」、「パレスチナ問題」を通して、政治・経済・国際関係・民族問題・人権問題など様々な角度から学習に取この地域に介入してきたアメリカのあり方についても考えアメリカを標的としたテロ事件の背後にあるものも考える。</p> <p>イスラム教のイメージなどを出し合い、誤った負のイメージを正す説明 なぜこの地域で、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教が対立を繰り返すのか等を学習。</p> <p>「パレスチナ問題解決の方策」をテーマにディスカッション、日本の取るべき立場も考えてみる。 班別 クラス全体</p>			<p>「グローバリズム」について正しい知識を得る。</p> <p>黒井千次「球体のダイナミズム」 藤原正彦の「数学者の休憩時間」を読みまとめる。</p> <p>「グローバル・イシュー」と「アメリカナイズーション」「自国優先主義」とは根本的に異なることを理解する。また「数学者の休憩時間」からは「数学者の休憩時間」と言う問題をあげ、日本人が今後「グローバル化された世界での可能性」についても学んだ。</p> <p>インターネットを使い国際化とグローバル化との違い、一部先進国による自国化について現状と問題点そして日本人の海外に誇る特性としての「宮沢賢治の心」について調べた。</p> <p>また黒崎卓也「貧しき人々の声をいかに聞くか」の文を使い、全文を要約する「貧困の見方」をまとめた「日本から見たあなたの意見」について、ネットを使うのではなく、自分で考えて書かせるという小論文の基本について取り組ませた。河合雄の「グローバル化と日本文化」を読み、近代以降の科学の発展とグローバル化の関係から「科学」と「文化」の違いとグローバル化における普遍性についても学んだ。</p>	<p>プレゼンテーションによる情報発信</p> <p>(1)プレゼンテーションの基礎 ・プレゼンテーションとは ・効果的なプレゼンテーション ・プレゼンテーションテクニック (2)PowerPoint実習 ・基礎実習 ・発展実習 (3)プレゼンテーション準備 Beautiful Hyogoをテーマに海外の観光客を兵庫県に誘致するためのプレゼンテーションを準備 (4)PowerPoint実習 (5)プレゼンテーション実習 (6)フィードバック</p>
<p>貧困</p> <p>発展途上国における貧困、日本における貧困、Food Bankについて、絶対的貧困、相対的貧困の観点から学ぶ。</p> <p>「複眼的な視点を持つことを最初に学び、その後、「課題研究」に取りかかる。情報を複数の視点から調べ、SDGsに関する世界で起きている問題点に目を向け、各グループで解決策</p> <p>1) グループ分け 1クラス10グループで、19のSDGsのテーマからそれぞれ1つのテーマとそれに関する国を決定する。 2) 課題リサーチ 最初は各自でSDGのテーマに関する問題点を見つけ、グループで共有する。その後、問題点を1つに絞る。 3) 解決策リサーチ グループで決定した問題点の解決策を各自でリサーチし、グループで共有する。 4) 考察 国情報、問題点、原因、解決策を各自で調べた後、それぞれが解決策について考察する。その後グループとして考察をまとめる。</p>			<p>1学期の学習の内容から、インターネットを使い日本の東南アジアへの援助の現実について調べさせる。 タイ、マレーシア、シンガポール以外の国について具体的な支援の内容をまとめさせるとともに各国の経済状況、その他の問題点について理解させた。</p> <p>2学期も後半に入り、最後の成果発表に向けて今までの取り組みから、「東南アジアの国の現状問題点そして日本の関わり」という内容を4人〜7人の班ごとにプレゼンテーションをする用に指示した。「東南アジアの国、なかから「フィリピン」、「ラオス」、「スリランカ」の三国をあげ、そこから選ぶようにした。その中でも「ラオス」は不発弾処理等の問題を予想していたが、ちょうど指示した後に「ダム決壊」の事件が起き、ラオスの抱える一つの問題が明らかになった。</p>	<p>Scratchを利用した問題解決</p> <p>(1)プログラミングの基礎学習 (2)アルゴリズムとフローチャート (3)Scratchの基礎学習 (4)ゲーム作成 (5)フィードバック</p>
<p>5) Progress Check グループ同士でプレゼンし、質疑応答をする。論議展開やリサーチの不足分等を指摘し合い、再度リサーチをする視点を提供する。</p> <p>6) 英語で発表 グループ毎に英語発表し、調べたことをクラスで共有する。プレゼンの際、メモを取りながら発見したことや質問事項を書きとめ、質疑応答することで、内容を深める。</p> <p>2学期から継続して行ってきた「課題研究」を成果発表会で発表する。今まで学んできたスキルを活用する場とする。</p> <p>フィリピンにおける人権・環境・経済の観点から「課題研究」を行い、代表者が現地です</p>			<p>各班7分〜10分、動画の使用は3分までということ生徒は意欲的にプレゼンに取り組んでいる。今年度の学習の集大成として知識を深め、表現力をつけて、世界の中での「日本の位置」についての理解を深めていくことであろうと思う。</p>	<p>SGH 成果発表会</p> <p>神戸市外国語大 中嶋圭介准教授講演 「課題研究 上級編 スタディツアーとは？」</p> <p>フィリピン Ateneo de Manila 大学 Jayeel Cornelio 先生講演 「Young People in the Philippines」</p> <p>フィリピン Ateneo de Manila 大学 Jayeel Cornelio 先生講演 課題研究への助言</p> <p>1年間の活動のまとめ ポートフォリオ完成 自己の変容の振り返り</p>
<p>[まとめ] 世界には、日本との関係が深い国もあれば、浅い国もある。日本と良好な関係を築けている国もあれば、悪化している国もある。様々な視点から世界を見る目を養い、今、どのような課題、難題が存在するのを知り、次代を担う自分たちには、どのような期待がかかっているのかを自覚する。授業を通じてこれらの姿勢、態度が養われれば幸いである。</p>			<p>課題研究：未来を担う子どもたちのために私たちにできること</p>	<p>課題研究の検証：フィリピンフィールドワーク</p>

平成30年度 GS A、GS B、GS C 授業の展開

神戸市立葺台高等学校

科目	GS A(総合学習)(1単位)	GS B(課題研究)(2単位)	GS C(2単位)	日本文化紹介(2単位)
対象	国際科全員	国際科全員	国際科選択者(14名)	国際科選択者(11名)
	<p>オリエンテーション ・アンケート(意識調査)</p> <p>講義: "Forefront of Global Health" WHO 神戸センター所長 サラ・ルイス・バーバー氏</p> <p>フィリピンフィールドワークツアー報告会</p> <p>国際科集会: SGH・四大陸高校生サミットについて</p> <p>KOBE 四大陸高校生サミットat Fukiai オープニングセレモニー担当 トピックを選んで参加</p>	<p>1 オリエンテーション 今年度の目標 1学期の予定 春休みの課題(短いサーペーパー)を互いに読んでコメントを書く。</p> <p>2 リサーチペーパーの書き方を学ぶ Introduction, Research Methods, Results and Analysis, Conclusion and Recommendation から成る先輩のリサーチペーパーを構成に留意して読み、各パートの役割を学ぶ。</p> <p>3 課題研究の導入 ブレン・ストーミング 課題研究のテーマを考える。SDGs17のテーマの中から4つのテーマに絞る。 1. Education 2. Environment (Natural Disasterを含む) 3. Economy 4. Health 5. Human Rights 現状を把握するためにデータを集める。情報検索の具体的な方法を学ぶ。先行研究を自分の研究に生かす方法について学ぶ。 1-3名のグループで関心のあるテーマを絞り先行研究を集める。盗用の禁止・引用について学ぶ。 問い(Research Questions)を立てる。Introductionの完成</p> <p>4 デジタル ポートフォリオの導入 研究成果と振り返りを保存し、調査内容や参考文献などをポートフォリオに残す</p>	<p>1学期目標(テーマ: '大きな政府・小さな政府'・時事問題等)</p> <p>1. 時事に関心を持つ 2. 信頼でき適切な情報を収集することができる 3. 多角的な視点を持ち、論理的に問題解決をすることができる 4. 高校生サミットへの関り通して企画・運営力を高める</p> <p>活動: 講義・ディスカッション</p> <p>1 テーマ *「大きな政府・小さな政府」 *「サマータイム」 *「米朝首脳会談」</p> <p>2. KOBE 四大陸高校生サミットat Fukiai オープニングセレモニー企画・運営 (プログラム作成、司会、全員参加アート等)</p>	<p>担当教員 国語科・地歴公民科・芸術科(美術)・</p> <p>1学期の目標 ・日本の伝統文化を体験を通して学ぶ ・日本の文化の特質について考える ・日本の伝統文化に関するプレゼンテーション</p> <p>体験する伝統文化 文楽(国立文楽劇場 文楽鑑賞教室) 茶道</p> <p>時間配当 1. ビデオを用いたプレゼンテーション作成の技術学習(4時間) 2. 伝統文化体験(4時間) 校外の鑑賞教室・美術見学に土日に参加事前学習及び体験後のまとめの時間設定 茶道の歴史と精神についての学習と和室での実習(4時間) 3. 日本文化紹介プレゼンテーション作成(10時間) 日本の伝統文化についてグループでテーマを設定してプレゼンテーションを行う(10時間)</p>
夏季休業期間中	<p>オーストラリアSGH提言ツアー: Westbourne Grammar School</p> <p>JICA関西インターンシップ 「各国インフラ整備担当行政官に聞く」</p> <p>イオン1% アジアユースリーダーズ</p> <p>インドネシア高校生国際会議</p> <p>スウェーデン夏季短期研修: Fenix High School</p>	<p>・各自、課題研究について文献にあたり、夏季休業後に提出する。</p> <p>・国内・海外へのフィールドワークや質問や調査など積極的に行動してデータを集める。</p>		
	<p>スウェーデン夏季短期研修報告会</p> <p>オーストラリアSGH提言ツアー報告会</p> <p>ワークショップ: 課題研究に対する助言 神戸市外国語大学 野村 和宏 教授</p> <p>ワークショップ: 課題研究に対する助言 神戸市外国語大学 中嶋 圭介 准教授</p> <p>講演 EUがあなたの学校にやってくる 高校講座 EUの組織、課題、未来 在日ルーマニア大使 ヨシベル・タティアナ氏</p> <p>台湾国立台中第一高級中学校訪問 プレサミットの実施</p>	<p>1 課題研究 ・夏休みに収集したデータをグループで共有する。 ・国内外へのアンケートやインタビューを計画し、実施する。 ・研究を進めていく過程で、問いや仮説を再度確認する。 ・有志グループが調査途中の発表を行い、大学の先生に助言をいただく ・データを分析し、論文の中心となる主張をまとめる。 ・計画を立てて、パートごとに英語の論文を書き始める 論文作成 ・英語のリサーチペーパーの例を参考に、具体的な表現について学ぶ。 ・アウトラインを作成し、書き進める ・学期末にConclusionまでを提出する</p> <p>2 デジタル ポートフォリオの継続 日々の振り返りを記録する グラフや参考文献などポートフォリオに残す</p> <p>3 国際協働学習 修学旅行(台中一中)での活動の準備 ・プレゼン、discussionに向けての準備</p>	<p>2学期目標(テーマ: 国際関係)</p> <p>1. 信頼でき適切な情報を収集することができる 2. 多角的な視点を持ち、論理的に問題解決をすることができる 3. ディベート活動により物事を客観的に見つけ、評価できる 4. 英語によるコミュニケーション能力を高める</p> <p>活動: 講義・資料収集・ディベート</p> <p>テーマ *「中華人民共和国と台湾」 *「北朝鮮と韓国」</p>	<p>2学期の目標 日本文化についての理解を深めるとともに、分かりやすい情報発信について実践的に学ぶ。 ・日本の美術・建築について学び、発信する ・台湾修学旅行での「日本文化紹介、プレゼン体験する伝統文化 日本舞踊 落語</p> <p>時間配当 1. 夏季休業中に調査した「日本の美術」に関する事柄についてプレゼンテーションを作成し、発表する(8時間) 2. 日本舞踊体験(2時間) 3. 落語(1時間) 4. 台湾修学旅行プレゼンテーションの作成・準備(13時間)</p> <p>台湾修学旅行での姉妹校台中一中との交流において、日本文化を紹介するプレゼンテーションを行う。</p>
3学期	<p>SGH成果発表会 ポスターセッション 各トピックで議論 SGHの取り組み発表他</p> <p>ワークショップ: 課題研究に対する助言 Ateneo de Manila University Dr. Jayeel Cornelio</p> <p>ディスカッション Ateneo de Manila University Dr. Jayeel Cornelio</p>	<p>1 課題研究 冬休み中の課題としてポスターを作成し、口頭発表原稿を書く ・成果発表会では2教室でそれぞれテーマに沿った15のポスタープレゼンとQ&Aを2回行う ・各テーマごとに決めた議題に関してModeratorの司会のもと、解決に向けた活動、もしくは提言をまとめる。全体会でReporterが報告 ・Abstract, Recommendations / Suggestions さらにConclusionを書き、論文のフォーマットを整え、グループ内で読みあて、助言をし推敲する ・各自が準いている論文に、ReferenceやAppendixを加え、グループ内で読みあて、助言をし推敲する。 ・完成した論文を提出する ・有志グループが作成中の論文の発表を行い、社会学が専門の海外の大学の先生に助言をいただく ・パネルディスカッションを体験する。</p> <p>2 学びの記録作成 中間発表の振り返りと次年度の四大陸サミットに向けて1年間の課題研究</p>	<p>3学期目標(テーマ: 国際関係・人口減少の日本)</p> <p>1. 信頼でき適切な情報を収集することができる 2. 多角的な視点を持ち、論理的に問題解決をすることができる 3. ディベート活動により物事を客観的に見つけ、評価できる 4. 英語によるコミュニケーション能力を高める</p> <p>活動: 講義・資料収集・ディベート・ディスカッション</p> <p>テーマ *「イギリスのEU離脱」 *「人口減少の日本」</p>	<p>3学期の目標 ・地域の魅力を調査し、発信する</p> <p>時間配当 「私だけが知る神戸の魅力」をテーマに、神戸市内の特色ある場所を实地調査し、その調査をもとに外国人向けの英語プレゼンテーションを作成する。 (13時間)</p>
春季休業期間中	<p>○ アメリカ 提言ツアー Sammamish High School</p>			

平成30年度 GS B、GS C 授業の展開

神戸市立葺合高等学校

科目	GS B (総合的な学習の時間) (1単位)	GS C (学校設定科目) (2単位)
対象	国際科全員 (75名)	国際科選択者 (44名)
1学期	<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組について ・KOBE 四大陸高校生サミットat Fukia 2018 概要 日程説明 ・SDGsと連携した各分野の内容決定 <p>○アメリカ提言ツアー報告会</p> <p>○四大陸高校生サミット 5分野での準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野内の生徒の役割分担 ・プレゼンテーション発表者 内容の精選 ・各分野のdiscussionの進め方、記録係の打ち合わせ <p>○四大陸高校生サミット 全体会の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開会式の企画・全体司会練習 ・ファイナルプレゼンテーション 共同宣言準備 ・日本語・英語 発表概要資料作成 ・ファイナルパフォーマンス準備 	<p>○オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KOBE 四大陸高校生サミットat Fukia 2018 分野別の議題の選択 <p>○四大陸高校生サミット 5分野別発表の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各分野で内容の見直し、リサーチをして、研究を深める。 ・分野別発表のパワーポイント・発表原稿完成 練習 ・ポスター発表者の決定、内容の改善 <p>○ポスター発表の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポスター発表者の決定、内容の整理・改善 <p>○海外の参加校とオンラインで発表内容確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表内容、議事進行の確認、質疑応答 <p>○四大陸高校生サミットの議論進行の準備、サミット運営の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・discussion 司会、記録係、報告係の練習 ・プログラム・運営・役割分担詳細 ・発表者紹介リーフレット、会場設営計画 <p>○共同宣言の英語・日本語版作成</p>
夏季休業中	<p>○2年生の提言ツアー(スウェーデン)の準備手伝い、助言</p>	
2学期	<p>○四大陸高校生サミット 振り返り</p> <p>○3年間のSGHでの学びを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間の取組の感想、リサーチペーパー、ポスター等をフォルダーにまとめ、自身の成長を振り返る <p>○四大陸高校生サミットの冊子のアウトライン作成 原稿作成・校正</p> <p>○多文化共生神戸フォーラムの運営の支援</p>	<p>○四大陸高校生サミットの詳細な振り返りを個人・チームで行う</p> <p>○四大陸高校生サミットの記録冊子を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冊子の作成の目的確認 ・役割分担 エディター、ライター、イラストレーター ・写真、記録を収集する 原稿をまとめる 目次を書く 表紙を作成する ・レイアウト・フォーマットを揃える、校正する 試し刷りする <p>○アメリカの姉妹校からの訪問教員3名に日本文化を紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化を知ってもらうためにペアでパワーポイントの作成・発表 <p>○Lecture & Workshop “Sam先生 関税と暮らし” “Zac先生 資源開発と環境保全”</p> <p>○共同宣言で提案した草の根活動の実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業までにできることを企画、下級生に伝えることをまとめる。
3学期	<p>○四大陸高校生サミットの冊子の印刷</p> <p>○NPO法人フキックス・コルプス3月の総会計画・準備</p>	<p>○共同宣言の提案した内容で、継続してほしい部分を2年生に説明</p> <p>○課題研究をする上での留意点を1年生に説明</p> <p>○葺合高校国際科・紹介ビデオ作製</p>

2 学校設定科目「GSIA」

GSIAの取組

GSIAは、地歴公民科、英語科、国語科の3教科が連携して、「人権」「環境」「経済」の面から国際問題を考えるための素地を作る科目である。地歴公民、英語、国語が、それぞれ週1時間の授業を行った。

英語では、世界の人口、言語、宗教、教育、経済(貧困)に関する教材を通して、生徒が関連する英語表現を身に付け、世界を包括的に見渡す視点を持てるようになることを第一の目標とした。また、調べ学習と英語での発表を通して、論理的思考能力や課題解決力、プレゼンテーション力の育成を図った。これらの学習を通して、グループで協力して調べ、それぞれの意見を共有することで、協働の雰囲気が高まり、お互いから学ぼうとする姿勢も育成されていった。

GSIAの地歴公民、英語、国語が内容を共有することで、互いの教科の強みを生かした学習を進め、互いに補い合っ
て生徒の学びを深めている。たとえば4月当初に、地歴公民科で世界の国々の現状を学んだ時には、英語でも世界の国々
や言語や宗教についての呼称や特徴を学習し、英語を使って説明ができるようにした。

国語では、グローバルという概念、日本の位置、アジアの状況そして発信力向上に取り組んだ。評論文を読んでグロ
ーバルという概念、危険性を学び、2学期からは課題研究に向けてアジアの現況と諸問題改善解決に向けての提案をま
とめた。それらの作業のなかで多くの知識をつけるだけでなく、今後の課題研究に向けての意識は高まったように見え
る。他者の発表も真剣に聞き、質問をし、自らの意見に対する反対意見に対しても耳を傾けるなど、研究発表とその発
表に対する見直しなども実践できた。

GSIAは、他の教科とも連携している。SGHの取組として、教科「情報」から1単位を学校設定科目「コンピュ
ータリテラシー」とした。そこで生徒たちは情報収集の方法や、効果的なパワーポイントの作成法を学び、日本語・英語
でのプレゼンテーションに大きな効果を発揮した。2学期後半から始まった課題研究は、国語、英語、コンピュ
ータリテラシーが協力して授業を進めた。

(1) GSIA-S(地歴公民)

[概要]

「GSIA」は、本校設定科目グローバルスタディズの1学年の授業であり、「英語」、「国語」、「地歴公民」がタイ
アップして作り上げていく授業である。

「GSIA-S」においては、「現代社会」の国際経済・国際政治の内容をアレンジしながら、学習内容を構成したが、
教科書は使用せず、授業教材はすべて教師側が作成した。

第二次世界大戦後、大きく変貌を遂げた世界情勢について、多角的な視点で現状をとらえ、その諸問題について
学び、グローバルな視点をもって解決法を模索する姿勢など、「地球市民」のひとりであるという自覚の育成をめざ
すものとした。

[本年度の取り組み]

「世界の現状とは」を、GSIA-E(英語)、GSIA-J(現代文)、GSIA-S(現代社会)の共通テーマとし、授業を
展開した。

- ・私見ではあるが、最近の高校生は、地理的知識が不足しているように感じる。たとえば国名をあまり知らない、
国名は知っていても白地図上の位置がわからないなどである。国際社会に興味を持つ生徒が比較的多い国際科生
徒にしてもしかりである。

まずは授業の導入部分として、主要国の国名や位置など白地図を使って覚えさせた。

- ・戦後の国際政治と国際情勢について、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカと順次取り上げた。各地域、各
国の諸問題のなかでも人権問題、経済問題、環境問題などを中心に取り組み、生徒に考えさせることをこころが
けた。また、世界の諸問題にはそれに起因する歴史的背景があり、それらにも触れることにより内容をより深め
た。

[学習内容]

年間で、取り扱った国や地域、学習内容は以下の通りである。

韓国 北朝鮮	<ul style="list-style-type: none"> ・朝鮮戦争 ・冷戦下の状況 ・両国の現状と対日関係 など
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・経済開放政策 ・中国がかかえる諸問題 (台湾、チベット、都市部と農村部など)
東南アジア ベトナム戦争 カンボジア ミャンマー フィリピン インドネシア	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム戦争～ドイモイ政策 ・ポルポト政権とその後のカンボジア ・アウンサン・スー・チー ・ロヒンギャとは ・ドゥテルテ政権 ・スカベンジャーとは ・東ティモールの独立
インド パキスタン	<ul style="list-style-type: none"> ・イギリスの植民地政策 ・カシミール問題
西アジア アフガニスタン イラン イラク イスラエル シリア 宗教	<ul style="list-style-type: none"> ・ソ連のアフガン侵攻 ・イラン革命 ・イラン・イラク戦争 ・フセイン政権 ・湾岸戦争 ・イラク戦争 ・PKO を考える ・ナチスのユダヤ人迫害 ・パレスチナ問題 ・中東戦争 ・シリア内戦 ・イスラム国 ・イスラム教 ・イエールサレム、メッカ
EU 諸国	<ul style="list-style-type: none"> ・EU 成立までの歴史 ・EU のメリット・デメリット ・ブレグジット
アフリカ諸国	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜアフリカは植民地になったのか ・南スーダン ・コンゴ内戦 ・南アフリカ
アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域紛争への介入 ・ベトナム戦争 ・湾岸戦争 ・イラク戦争 ・アフガニスタン戦争 ・中東戦争など ・トランプ政権 など

授業形態は講義形式が主体だが、「パレスチナ問題」、「ブレグジット」などテーマを与えて班別ディスカッション、発表なども行なった。評価は3回の定期考査を中心に行なった。

[まとめ]

世界には、日本との関係が深い国もあれば、浅い国もある。日本と良好な関係を築けている国もあれば、関係が悪化している国もある。また、一見無関係のような国もどこかでつながっている。

様々な視点から世界を見る目を養い、今、どのような問題が存在するのかを知り、客観的に、時には主観的に、それらの難題に向け方策を考え、解決に向けて取り組む姿勢を育てることを心かけた。

授業を通じて生徒たちが、次代を担う自分たちにはどのような期待がかかっているのかを自覚する気持ちが強まってくれば幸いである。

(2) GSIA-E (英語)

GSIA-E では、2年次に行う課題研究に向けた基礎学習を行った。この科目の授業形態は、CALL 教室で日本人英語教員とALT がチーム・ティーチングで1クラス40人の生徒への一斉指導である。本科目で生徒につけさせた力は、「MAKS16の力」のうち、「多角的な視点をもつ多面的で広い視野」「柔軟性に富んだ問題解決能力」「意見を論理的に主張できる能力」「主張と協調性のバランスが取れる能力」「論理的思考能力」「デジタルツールを多面的に使いこなす能力」「高いコミュニケーション能力」「高いプレゼンテーション能力」の8項目である。これらの力を育成するために、1学期、2学期前半は、テーマに沿った記事を読み、英語で意見を交流することに主眼を置き、リサーチプレゼンテーションを行った。1学期は英字新聞を読んだ記事を用いて小グループ内での発表から世界の基本的な情報を調べ、PowerPoint を用いた発表を、2学期は、1学期に調べた国についてさらに深められるよう、問題点や解決策を調べ、PowerPoint またはポスターを用いたプレゼンテーションを行った。2学期後半は、SDGs (Sustainable Development Goals) について学習し、3学期のリサーチプレゼンテーションが、1学期から

2学期にかけて学習したリサーチプレゼンテーションの集大成となるように、グループで調べた国の紹介、問題点、原因、解決策を分担して準備をした。

1学期は、MAKS16 の力のうち の力を育成することをねらいとして、テーマに関する記事を読み、そのあとに Discussion Question についてペアやクラス全体で意見を交流させた。まず初めに導入として、*If the World Were a Village of 100 People* (『世界がもし 100 人の村だったら』) を用いて世界についての全体像を把握した後、「言語」「人口」「宗教」「教育」について英字新聞の記事を取り上げ、内容理解と現状把握を行った上で意見交換を行った。

1学期の最後は、扱った4つのテーマの視点から1つの国を調べ、PowerPoint を使ったプレゼンテーションを行った。この活動で身に付つけてもらいたい力は、「視点」をもって調べることと、それを相手にわかりやすく伝えることにある。高校での初めて使用する PowerPoint のプレゼンテーションは必ずしもうまくいくとは限らなかったが、他のグループのプレゼンテーションから学び、自分のプレゼンテーションを振り返ることで、自分たちの課題が何かを考えさせる良い機会となった。

2学期当初は、1学期行った復習を兼ねて、各自が発表した国における新聞記事について「5W1H」の観点から発表し、各地域における問題点、解決策を地域ごとに各自が掘り下げて調べた国をグループ内で比較しながら、PowerPoint やポスターを用いて発表した。MAKS16 の力のうち の力を養成することをねらいとした。特に課題研究で必要になってくる「多角的な視点」を学ぶために、貧困をテーマとし、絶対的貧困、相対的貧困など貧困の定義、経済格差など、世界、日本の英字新聞や教材を一例として用いて、ディスカッションを行った。

2学期後半は、1学期から学んだスキルを使い、また2年次に行う課題研究に向けて、2学期にリサーチしたものを発表した。まず、SDGs にあげられている17のテーマから自分のグループが関心のあるものを1つ選び、各テーマに関する国内外の抱えている問題、原因、解決策を、個人でリサーチするところから始めた。各自でリサーチしたものをグループ内で発表し、さらにグループで1つの問題点、解決策に絞り込み、そこからまた1人1役で、国とSDGの紹介、問題、原因、解決策を分担した。さらにその解決策についてそれぞれが考察し、グループで考察を深めていった。個人だけでは1つの観点しか見られないものを協同学習によって別の視点から気づきを促し、多角的な視点で調べることが目的とした。各自で分担すると、グループで研究が繋がっているのかを確認する必要があり、教師が分担して生徒たちのアウトラインを確認した。

発表前には、他のグループの前で互いに発表し、軌道修正を行うと同時に、質疑応答の練習を行った。GSIA-Eでは英語でプレゼンテーションになるため、パワーポイントスライドの確認の前に原稿の確認が必要であった。週1時間の授業では不十分で、各自が自宅で調べたり、グループで放課後確認したりする必要もあった。2年次では1人で課題研究に取り組む必要があるため、2年次でそれぞれの生徒が研究から発表までの方法を把握できるよう、1年次ではグループで協同学習を踏まえて他者からも学ぶ機会を設けた。

1年間を通してこのような調べ学習を行うことで、生徒たちは学年当初に目標としていた「MAKS16 の力」の8項目うち、全ての生徒が、「デジタルツールを多面的に使いこなす能力」「高いプレゼンテーション能力」を習得し、「高いコミュニケーション能力」「多角的な視点をもつ多面的で広い視野」「柔軟性に富んだ問題解決能力」「意見を論理的に主張できる能力」「主張と協調性のバランスが取れる能力」「論理的思考能力」も習得できたと回答していた。グループ内で意見交換しながら1つのプロジェクトを作り上げることで、協同学習の大切さ、最初は困難と感じていたデジタルツールの使用もリサーチ力を高めるとともに向上させることができた、多くの生徒たちが達成感を感じているようである。

(3) GSIA-J (国語)

SGH を考える上で、まず大事だと思ったことが「グローバリズム」について正しい知識を得ることで有り、その中での日本の立ち位置について自分で考える力をつけることであった。そして国語総合という科目の目標を念頭に置き、総合的な読解力と知識をもとに表現力をつけて、探究心を育てることを念頭に置いて授業を進めた。

これによって本校がめざす MAKS16 の力のうちの 「多角的な視点」「他国の文化」「自国の文化」に対し

での深い知識と「高いプレゼンテーション能力」を身につけることができると考えた。

大学入試に出てくるような評論文から適当な題材を探し、まずは黒井千次「球体のダイナミズム」を題材として、「グローバリゼーション」とは「アメリカナイゼーション」「自国優先主義」とは根本的に違い、現在はこれらの危険性もあることから授業を進めた。

続いて藤原正彦の「数学者の休憩時間」から「グローバル化と日本」と言う問題をあげた。ここで陥りやすい「グローバリゼーション」と「インターナショナルライゼーション」の違いがあることと、藤原正彦の文中にでてくる、日本人の海外に誇る特性としての「宮沢賢治の心」という語をインターネットで調べるように課題を出した。

主な内容は以下の通りである。

国際化 (Internationalization) とグローバル化 (Globalization) との違いを調べる。具体例も書くとわかりやすい。
一部先進国による自国化について 現状と問題点

(Chinalization と Americanization, Cocacolonization etc. current situation and problems)

「宮沢賢治の心」について調べる (Research about "the heart of Kenji Miyazawa")

はじめてコンピューター教室を使って検索しながらまとめるのであるがまず次のような助言をした。

基本1 信頼できるサイトを選ぶ

信頼できるサイトを考えてほしい次のような順序が考えられる。

各省庁・研究機関等公的機関のサイト

大学等教育研究機関のサイト (「学会」と入れるとよいことも)

NPO 法人サイト

新聞等報道機関 (個人的な意見を載せている場合もあり)

個人運営サイト

× まとめサイト

Wikipedia 等

幸いにも本校には日本語だけでなく英語も堪能な生徒も多く、海外のサイトでの検索も使っても良いように付け加えた。

基本2 一カ所だけでなく何カ所かのサイトを調べる。

基本3 時間を使う、納得のいくまで という指示を与えた。

これはその後の神戸市外国語大学の中嶋先生が本校で講演された際の「腱鞘炎になるほどクリックして調べましょう」という内容はその後の探究活動に役立った。

また、GSIA-S の授業との関連から、現在日本が東南アジアにどれほど関わっているかを大学など高等教育・学術機関・学校法人、政府組織、独立行政法人国際機関、国連、外国政府の在日公館など国際的な公的機関等のページから調べさせた。

ここで現在の日本の東南アジアへの関わりを理解したことから、黒崎卓也「貧しき人々の声をいかに聞くか」の文を使い、全文を要約する。「貧困の見方」をまとめ「日本から見たあなたの意見」について、ネットを使うのではなく、自分で考えて書かせる小論文の基本について取り組ませた。

典型的な評論文の書き方から授業を進め、日本の貧困国に対する現在の関わりという知識もあるところから多くの生徒は現実的な、評価に値するものを書き上げたが、中には「他にもお金を使うべきことがたくさんあるのでは?」とか「こんなことにお金を費やすべきでない」等々の記述が見られた。

そこで今度は 100 年前の「関東大震災」の際の世界中からの日本に対する援助の詳細、その後の著名なバングラデシュへの世界初のコンサートによる支援そして阪神大震災、東北の震災での各国からの支援について、背景、具体的金額等を説明した。

また河合隼雄の「グローバリゼーションと日本文化」、山崎正和の「社交する人間」を読み、近代以降の科学の

発展とグローバリズムの関係から「科学」と「文化」の違いとグローバリズムにおける普遍性についても学んだ。

2学期も後半に入り、最後の成果発表に向けて今までの取組から、「東南アジアの国の現状 問題点 そして日本の関わり」という内容で4人～7人の班ごとにプレゼンテーションをするように指示した。

「東南アジアの国」ということで「フィリピン」「ラオス」「スリランカ」の三国をあげ、そこから選ぶようにした。その中でも「ラオス」は不発弾処理等の問題を予想していたが、ちょうど指示した後に「ダム決壊」の事件が起き、ラオスの抱える一つの問題が明らかになった。

各班7分～10分、動画の使用は3分までということで生徒は意欲的にプレゼンに取り組んでいる。今年度の学習の集大成として知識を深め、表現力をつけて、世界の中での「日本の位置」についての理解を深めていくことであると思う。

3 学校設定科目 GS B

(1) 本年度の取組

本年度のGS Bは、過去3年間と同様、課題研究を中心に、校外での発表・交流活動に取り組んだ。課題研究の指導では、3年間の積み重ねの結果である優秀論文集や論文の項目ごとの説明資料、評価方法実践等を活用することでより効率的に進めることができた。本年度の姉妹校との発表交流は、修学旅行時の台中一中での交流の1回であったこともあり、研究内容を発表する機会を毎学期設定した。1学期は研究の背景とリサーチクエスチョン、2学期は1学期の内容に加えデータとその分析、3学期は研究をまとめたポスター発表を一人ひとりに課すことで、段階的に研究に取り組むことができていた。GS Bの目標として、MAKS16の力のうち、多角的な視点を持つ多面的で広い視野 柔軟性に富んだ問題解決力 意見を論理的に主張できる能力 主張と協調性のバランスがとれる能力 デジタルツールを多面的に使いこなす力 英語でのプレゼンテーション能力 を向上させることに設定し、生徒と共有した。研究は二人組を基本とし、国連が提唱しているSDGsの17のゴールを参考に、生徒自身の興味関心に基づいて決定した。その後、担当教員で話し合い5つのテーマに分類した。リフレクションとポートフォリオに関しては、随時記入の形態を引き継いだ。本年度は課題研究のインターンシップを希望した3名の大学生が授業に参加し、研究の内容やExcelのグラフ作成などのパソコン操作について助言を行った。

4年間の変遷

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
テーマ	Food and Water Family Studies Health and Sanitation The Internet or Media Basic Education	Education (SDG 4) Environment /Natural Disasters (SDG 7,12,13) Health (SDG 2,3,6,11) Justice (SDG 1,5)	Education (SDG 4) Environment /Natural disasters (SDG 7,12,13) Economy (SDG 9,11) Health (SDG 2,3,6,11) Human Rights (SDG 1,5)	Education (SDG 4) Environment (SDG 7,12,13) Sustainability (SDG 1,3,11) Health (SDG 2,3,6,11) Human Rights (SDG 1,5)
形態	3~4名で1つの課題研究	1~3名で1つの課題研究	1~2名で1つの課題研究	1~2名で1つの課題研究
リフレクション		プレサミットや中間発表、課題研究提出後に実施	プレサミットや中間発表、課題研究提出後に実施	4大陸高校生サミット、課題研究提出後に実施
ポートフォリオ		課題研究について毎時記述	課題研究について随時記述	資料まとめ中心に随時記述
評価	教員による評価	ループリック作成、教員による評価、生徒間評価	ループリック作成、教員による評価、生徒間評価	ループリック作成、生徒間評価
大学教員 講義・助言	5月(講義)7月(指導・助言)	5月(講義)9月、2月(指導・助言)	5月(講義)10・11月、3月(指導・助言)	11月、3月(助言) 2,3学期(指導・助言) インターンシップ大学生

(2) 英語論文の進め方

論文を書き始めるにあたって、英語論文の形式を学び、必要項目(Abstract、Introduction、Methodology、Data & Analysis、Discussion、Recommendation / Suggestion、Conclusion、Reference)を確認した。先輩生徒の代表作品を読み、ループリック(章末参照)を使って学習した。その後5つのテーマとSDGsに関連した具体的な課題(リサーチクエスチョン)を設定した。教師側も担当テーマ、対象生徒を決め、それぞれ評価や助言を行った。デジタルポートフォリオなどデータの保存方法、剽窃の禁止などの説明も行った。1学期はリサーチクエスチョンの設定やリサーチ計画を立てることに主眼を置いた。文献(本を必ず含むこと)探しを夏季課題とした。9月から

10月にかけて、データ収集の方法を決定し、文献に加え、質問紙やインタビューシートを作成した。10月末に、リサーチクエストに対する調査とその結果(Data & Analysis)、11月末に分析結果(Discussion)を完成させ、担当教師が評価や助言を行った。11月の2回、代表を希望した生徒が、リサーチの途中経過を大学の教授の前でプレゼンテーションを行い、課題設定や研究の流れに対して助言を受けた。また、同月、アメリカの姉妹校であるサマミッシュ高校の教員3名の前で希望生徒がそれぞれ発表を行い、助言や励ましをいただいた。他の生徒も担当教員が聞き手となり、発表を行った。冬季休業には suggestion (Recommendation)とポスター作成を課した。1月末のSGH 成果発表会では、15のポスター発表を約90名の見学者の前で行い、貴重な質問や助言をもらった。また、2月中旬には、全員がポスタープレゼンテーションを実施した。3月には希望者の中から選ばれた代表生徒が海外の大学の教授の前でポスタープレゼンテーションを行い、プレゼンの方法や研究について助言を受けた。

昨年度と同様、論文の各部分に取り組む前の準備段階として、ALTによるミニレクチャーを実施した。テーマは、「リサーチペーパーの書き方」「リサーチプロポーザルについて」「グラフの作り方」「データ分析について」「レファレンスの書き方」などとし、具体的な演習を取り入れた。

(3) 評価

GSIB の評価は、英語論文と口頭発表を中心にルーブリックを用いて評価基準を担当教員で共有し行った。

課題研究評価

学期	評価対象	配点	学期	評価対象	配点	学期	評価対象	配点
1	Mini lesson check	5	2	夏季課題	15	3	Suggestion	10
	Research Design	30		Summit Reflection	5		Conclusion	10
	Introduction	15		Methodology	5		Reference	5
				Data & Analysis	10		Abstract	5
				Discussion	10		Format	10
				PPT Presentation	20		Poster Presentation	20

(4) MAKS16の力の検証

課題研究とその発表を対象としてMAKSの力()を検証した。(2学期末)

評価対象	MAKS	達成度 60~80% 人(%)	80%以上 人(%)
Data & Analysis		18 (23.7)	18 (23.7)
Discussion		17 (22.4)	22 (28.9)
PPT presentation		17 (22.4)	53 (69.7)

1年生の時から課題研究に取り組んでいる生徒は、GS Bが始まる時点で既にテーマが決定している一方で、トピックがなかなか決まらず、書き始めるのに時間がかかる生徒もいる。課題研究の進捗状況や英語論文の質は個人によって大きな差があるが、英語で論文の各部分のフィードバックや、口頭発表でのQ&Aを活かすことで、一人ひとりが徐々に論理的に書く力、批判的に考える力が身についていく。SGH前にもプロジェクト型学習として調べ学習と発表を実践していた。各学期に2テーマ扱っていたので、広く浅い取り組みであり、ペアやグループでの発表が最終形態であった。自分で立てたりサーチクエストについて、1年間かけて答えを導き出し、文章化することは、意見を論理的に主張できる能力、主張と協調性のバランスがとれる能力が育成されていく。

4 学校設定科目 GS C

(1) 概要

地歴公民科教員、英語科教員とALTの3名が担当する、現代社会と英語の科目統合型選択科目である。題材は、1学年の現代社会の授業で学習した「経済」「環境」「人権」の知識を基に、1学期については現代社会を考察する課題、2～3学期にかけては国際関係の課題を取りあげた。授業計画、実践に関しては、内容と言語両方に焦点を当てた。平成30年度は14名が履修した。

目標：広い視野を持ち、主張と協調のバランス感覚に富んだリーダーの育成
論理的思考力、プレゼンテーション能力、交渉力、企画力、実践力の育成



(2) 今年度の取組

今年度も役割分担として、地歴公民科から分野に関わる背景知識を講義形式で提示したあと、その知識を踏まえて生徒が英語で行うディスカッションやプレゼンテーション、ディベートなどの「表現」の分野は主に英語科が受け持つことにした。

1学期は、時事に対して関心を持ち、現在の社会を多角的な視点で観察し、社会で問題となっている点を明確にし、その解決策を考察できることを目標にした。授業では、地歴公民科の教員・ALTが各テーマについての基本的な知識を身につけるために講義を行い、英語科教員・ALTの指導によりディスカッション・ディベートを行った。最初に取りあげたテーマは「大きな政府・小さな政府」である。このテーマに関連して地歴公民科の教員、ALTが資本主義経済・社会主義経済・混合経済についての講義を行い、日本の社会は「大きな政府・小さな政府」のどちらの社会を目指すべきものかを考えさせるためにディスカッションした。このテーマに関連して、税負担・福祉・高等教育の授業料・救急車の有料化などもディスカッションの題材として取りあげられた。次のテーマとして2020年東京オリンピック開催にむけて検討されていた「サマータイム」を取りあげた。地歴公民科の教員から、時差やサマータイムの歴史などを講義し、ALTからは出身国であるカナダでのサマータイムの様子などが伝えられた。その後、「日本にサマータイムを導入すべきか」を多角的に考察するためにディスカッションした。3つめのテーマとして、6月にシンガポールで開催された「米朝首脳会談」について取りあげた。地歴公民科の教員から、朝鮮戦争や当時の日本の状況について講義をした。このテーマから発展して「朝鮮有事に備えて日本はどうすべきか」をディスカッションした。この時、ALTから、日本の自衛隊はカナダではどのようにとらえられているのか、またカナダの軍隊についての話があり、多角的に考える機会となった。1学期の最後には、「四大陸高校生サミット」のオープニングに向けての準備も行った。準備段階から一人一人が協力し、無事成功におさめた。

2学期は、国際関係をテーマに授業を進めた。特に国家・地域・民族・宗教の対立を多角的な視点で理解し、共存の可能性を考察することを意識し、授業を展開した。まず初めに12月に修学旅行で訪れる台湾について、「台湾の独立？」をテーマとして取りあげた。地歴公民科、ALTが日本統治時代の台湾、戦後の国民党政府、台湾の民主化、台湾とアメリカとの関わりなどを講義した。ディベートでは中華人民共和国側と台湾側に分かれ、それぞれ各国のリーダー（習近平・蔡英文）・一般市民の立場などの役割分担を行い、それぞれの立場で調査を行い、「一つの中国が台湾の独立か」を論争した。台湾は国家か地域か、台湾を取り巻く国際関係など深く学ぶことができ、台湾修学旅行に向け、有意義な学習の機会となった。2つめのテーマとして、「朝鮮半島」を取りあげた。地歴公民科の教員、ALTが朝鮮半島の歴史、日清戦争、日露戦争、日本統治時代の朝鮮半島、朝鮮戦争、漢江の奇跡、朝鮮半島をめぐる国際情勢などを講義した。ディベートでは韓国側と北朝鮮側に分かれ、それぞれ各国のリーダー・一般市民の立場などの役割分担を行い、それぞれの立場で調査を行い、朝鮮半島統一について論争した。論争の中で南北の経済格差、北朝鮮と中国、ロシアの関係などを深く知ることで、統一への道のりの厳しさを実感したようで

あった。3つめのテーマは「パレスチナ問題」である。地歴公民科の教員、ALTがユダヤ教（キリスト教も少し）・イスラム教、ユダヤ人の境遇、イスラエル建国、中東戦争、オスロ合意などについて講義した。ディベートではイスラエル（ユダヤ人）側とパレスチナ（アラブ人）側に分かれ、それぞれ各国のリーダー・一般市民・宗教家の立場などの役割分担を行い、それぞれの立場で調査を行い、ユダヤ人とパレスチナ人との共存の可能性を探りながら論争した。調査する中で、混沌とした複雑な社会状況を知ることにより、共存の難しさを実感したようであった。

3学期の前半も国際関係をテーマに授業を進める予定である。2016年にEU離脱を国民投票で決定した「イギリスとEU（EUの中心であるドイツを取りあげる）」を取りあげる予定である。後半は、「人口減少の日本における経済発展の可能性」をテーマに授業を進めたいと考えている。人口減少の日本において、移民を受け入れるのか、AIを活用するのか、様々な可能性を探りながら答えのない問題を探究する授業にしたいと考えている。

- 地歴公民科教員

各テーマについての講義は、すべてプリントを作成し説明した。市販の書籍、インターネットの記事を参考に、利用できる記事を要約してプリントを作成し、資料探索も含めて多くの時間を要し苦労した。生徒たちは知的好奇心が高く前向きな姿勢で授業を受けていたが、複雑で難しい内容を説明するときには、集中力が続かない場面が見られた。説明や授業展開の工夫をさらに行わなければならないことを深く感じた。「ディベート」「ディスカッション」は英語で行われるので、リスニングを苦手とする地歴公民の教員にとって、内容を理解することは難しかったが、よく調査し積極的に自らの意見を発言したように思う。この授業を契機に、時事に関心を持ち、社会問題を多角的な視点で観察し、論理的に（できれば英語で）表現できるように成長して欲しいと願っている。

- ALT・英語科教員

グローバルスタディーズという科目名を聞いて子どもたちは何を想像するのであろうか。世界をただ漠然と距離を置いて眺めるのではなく、自分との関わりを感じとるには何が必要となるのか。この質問に対する答えを教師側からただ提示をするだけでは、生徒の興味関心を引き起こすことは極めて困難であるといえる。知識というきっかけを与えた後、子どもたちが自ら課題を設定し、そこから学びを紡ぎ上げていく姿にこの授業の本質があるといえよう。アウトプットは英語であるとはいえ、各自が備える知恵のもとには母語があり、それを礎として学習が成り立つ。他言語教育の指針と可能性を考えていくことは、必然的にこうした授業を担当するものの使命となるだろう。

5 学校設定科目 GS C

(1) 概要

学校設定科目グローバルスタディーズ(GS)の一つで、英語科教諭3名とALT2名が担当する選択科目である。3年間の学習で培った「MAKS」を活用し、GSの3本柱、「課題研究」「国際協働学習」「社会貢献活動」に取り組む。「KOBE 四大陸高校生サミット at FUKIAI」(四大陸高校生サミット)において企画・運営の中心的な役割を果たし、サミットで採択された共同宣言の内容を中心となって具体化していく。本年度は44名の生徒が履修した。

目標：広い視野を持ち、主張と協調のバランス感覚に富んだリーダーの育成

論理的思考力、プレゼンテーション能力、交渉力、企画力、実践力の育成

(2) 今年度の取組

1学期は四大陸高校生サミットに向けて、2年時の課題研究を基にプレゼンテーションを準備した。5つのカテゴリー(Education、Health、Economy、Human Rights、Natural Disasters)に分かれ、各トピック(下記参照)についてペアで調べ、パワーポイントを作成した。各カテゴリーグループで内容を改良し、代表のプレゼンテーションを完成させた。インターネット上の掲示板やメールを通じて、姉妹校生徒とプレゼンテーションに関して意見交換を行い、ディスカッションやファイナルセッションの準備をした。担当教員も5つのカテゴリーに分かれ、助言を行った。

プレゼンテーショントピック

Education	Education for People in Poverty	Health	Internet Addiction
Economy	Automation vs Unemployment	Human Rights	LGBT Support in School
Natural Disasters	Helping People with Disabilities during Earthquakes		

2学期は、四大陸高校生サミットの継続活動として、報告書を作成した。また、後輩に引き継ぐための活動としてプレゼンテーションの作成にもあたった。四大陸サミットの反省点や今回の四大陸サミットでの共通テーマである Grassroots Activism の内容、また、課題研究の進め方について、グループに分かれ作成した。また、新入生を迎えるにあたり、葺合高校国際科での学びをまとめたビデオクリップの作成も行った。

同じく2学期に、グローバルな視点を養うために Global Development として ALT が中心となり講義を行った。本校 SGH では環境・経済・教育の分野が柱となっているが、その中で、今回は経済と環境を取り上げた。経済分野では関税と補助金に関する基本的な概念を理解すると共に、社会や日常生活に与える影響について学んだ。環境分野では資源開発が環境に与える影響について学び、持続可能な開発の難しさについてロールプレイを通じて考えた。どちらも講義だけでなく意見の交換やワークショップなどを取り入れ、社会課題をより現実的にとらえることができた。また、英語圏の大学での講義の聞き方やノートの取り方なども教授され、英語のスキルを磨くストラテジーを吸収する機会にもなった。

11月にはアメリカ ベルビュー市の3名の教員が本校を訪れ、GS C 受講生徒と交流し、伝統的なものから高校生の間で流行しているものなど、様々な日本文化をペアまたはグループで紹介した。3年間の国際協働学習の経験を生かし、体験型で知的な興味深い内容の文化紹介を行うことができた。

年間シラバス

学期	内容	重点項目 (MAKS)	評価
1	2018 Four Continent Summit に向けて ・共通トピックの選定・決定 ・調査・アンケート実施・フィールドワーク などを経て、プレゼンテーション作成 ・ディスカッション準備 ・姉妹校生徒と意見交換	多角的視点を持つ 課題を見つけ解決方法を柔軟に考える 意見を論理的に主張できる能力 論理的思考力 デジタルツールを利用した発表 高度なプレゼンテーション能力 ・四大陸サミット運営にかかわる企画力、実践力の育成	Presentation ● Content ● PPT スライド ● Delivery Reflection Essay Writing
2 3	四大陸高校生サミット Reflection 四大陸高校生サミット報告書作成 日本文化紹介 (アメリカ ベルビュー市教員) Global Development (Lecture/Workshop) 後輩への引継ぎ	多角的視点を持つ 課題を見つけ解決方法を柔軟に考える 意見を論理的に主張できる能力 論理的思考力 デジタルツールを利用した発表 自国の文化・歴史に関する深い知識と理解 高度なプレゼンテーション能力 ・四大陸サミットまとめ冊子制作と、後輩へのプレゼンテーション作成における企画力・実践力の育成	Presentation ● Content ● PPT スライド ● Delivery Reflection Essay Writing Final Examination

年間を通して、Presentation に関しては、発表の内容、PowerPoint のスライドの出来具合、Delivery・Performance などを含める。一年次から何度も PPT でのプレゼンテーションを行ってきたこともあり、高い達成率であった。Reflection に関しては、一つの行事が終了した後に振り返りを書かせたものを評価した。次に生かすポイントなど、的確にまた客観的に振り返りができていたように思う。期末考査は、ALT の講義に関して学んだ知識やその知識を活用する内容について行った。実際のワークショップや授業では活発に意見の交換が行われていたが、期末考査の結果をみると達成度が低くなっている。これは、内容の理解はできていても的確に英語で表現できなかったこと、内容理解が曖昧だったことなどが理由として挙げられる。

企画力・実践力に関しては、生徒が決められた時間や場所などの制限の中で自分たち独自の内容を盛り込み、海外生徒や仲間との交渉を重ねながら、自主的に四大陸サミットという大きな行事を進めていったことは素晴らしい成果であったと考える。また、四大陸まとめ冊子や後輩へのプレゼンテーションに関しても、役割分担を明確に決め協力し合って仕事をすすめていた。自分の長所やユニークな能力を集団に寄与し、一人一人の力がうまく合わさって大きな成果物を完成させることができた。

評価方法	MAKS	達成度 60%～80% 人 (%)	達成度 80%以上 人 (%)
Presentation		14 (31.8)	19 (43.2)
Reflection		13 (29.5)	20 (45.5)
Essay Writing		2 (4.5)	41 (93.2)
Final Examination		6 (13.6)	8 (18.2)

6 コンピュータリテラシー

(1) 学校設定科目「コンピュータリテラシー」とは

構想調書に書いた身に付けさせる MAKES16 の力のうち、「デジタルツールを多面的に使いこなす能力」及び「高いプレゼンテーション能力を育成する」という目標のために設定した学校設定科目である。

(2) 授業の概要

(a) Word の習得：1 学期

世界シェアの高い MS-Word の基本的利用法（文字挿入と装飾、画像挿入、デザイン、ページレイアウト等）を学ばせた。

(b) Word を利用した情報発信：1 学期

「Beautiful Japan」をテーマとし、海外の人々に「日本の美」を伝える A4 サイズ 1 枚のポスターを作成し、正しい情報を分かりやすく文書化し発信する方法を理解させた。

<作品例>



(c) PowerPoint の習得：2 学期

プレゼンテーションソフトである MS-PowerPoint でのスライド作成法を学び、効果的なプレゼンテーションをするための技術を習得させた。

(d) PowerPoint を利用したプレゼンテーションの実践：2 学期

「Beautiful Hyogo」をテーマに兵庫県を海外の人々に知ってもらい、観光客増加を目的としたプレゼンテーションを行わせた。その際、プレゼンテーションの基本的技術（声の大きさ、せりふのプロミネンス、しぐさ、目線など）のトレーニングを行わせた。（すべて英語でのプレゼンテーション）

(e) Scratch（スクラッチ）を利用したプログラミングの実践：3 学期

問題解決の方法としてアルゴリズムを学び、Scratch を利用してプログラミングの基礎を習得させた。ゲームづくりを課題とし、UI（ユーザインターフェイス）やアクセシビリティの基本も習得させた。

7 日本文化紹介

(1) 概要

学校設定科目「日本文化紹介」は、国際科の学校設定教科「国際」の1科目として平成13年度国際科発足当初から設けられた2単位の選択科目である。

【科目の目的】 日本文化についての理解を深める
日本文化について生徒自身の視点から情報発信をする

上記の目的を達成するために次のような方法をとっている。

国語・英語・美術・地歴公民・情報の各教科の教員が協力して授業を行う。

日本の伝統文化を直接体験する機会を多く設け、ネットや書籍による間接的な情報だけでなく、実際に体験し見聞したことをもとに考えさせることを重視する。

日本の伝統文化に関する展覧会、茶道体験など、伝統的な日本文化を体験する活動を多く取り入れる。

台湾修学旅行のときなど、実際に海外向けに情報発信する機会を設ける。

情報発信は英語で行う。

(2) 今年度の取組

選 択 者：15名

授業内容：

【1学期】

- ・動画を取り入れたパワーポイントスライドの作成技術の習得
- ・日本の伝統文化についての体験および講義
- ・日本文化を紹介するプレゼンテーションの作成及び発表(1)
- ・[見学・体験活動]: 文楽鑑賞教室(国立文楽劇場) 茶道

【2学期】

- ・日本文化を紹介するプレゼンテーションの作成及び発表(2)
「日本の美術」をテーマに実際に取材をしてプレゼンテーションをする
- ・[見学・体験活動]: 落語、日本舞踊
- ・台湾でのプレゼンテーションの作成、準備
生徒全員で一つのプレゼンテーションを作成し、発表する
テーマ決定の段階から話し合いを行わせるなど、自主的な活動を重視する

【3学期】

- ・日本文化を紹介するプレゼンテーションの作成及び発表(3)
「私だけが知っている神戸の魅力」を外国人向けにアピールするプレゼンテーションを英語で行う
実際に自分が現地に行って撮影した写真やビデオを用いて行う
- ・[見学・体験活動]: 茶道

(3) 授業での各教科の取組

国語科

能、文楽、日本舞踊などの伝統芸能について調査・見学・体験し、レポート形式で発表する活動を行なった。生徒たちはこれらの伝統芸能に実際に触れたことがないため、希望者のみではあったが、大阪・難波の国立文楽劇場で行なわれていた文楽鑑賞教室に参加し、三味線の伴奏、義太夫の語り、人形の動作を体験するとともに、物語についての理解を深めるよう、事前学習を行なった。また、大槻能楽堂で行われた能楽鑑賞会に参加し、演劇としての能について理解を深めた。さらに兵庫県舞踊文化協会より花柳流および藤間流の先生をお招きし、日本舞踊の紹介・解説とワークショップを行っていただいた。

英語科

台湾への修学旅行でのプレゼンテーションに向けて、パワーポイントやスライドについて助言や指導をおこなった。プレゼンテーションに関しては、生徒同士の相互評価や ALT による細やかな指導もおこなった。「相手に伝えるにはどのように工夫したらよいのか」という点に焦点をおき、何度も練習を繰り返した。

美術科

今年度は、大阪市立美術館「江戸の戯画展」、中之島香雪美術館「珠玉の村山コレクション」と二つの展覧会を受講者4名と共に見学する校外学習を実施。実際に日本の伝統的な美術作品を自分自身の目で鑑賞する機会をもった。参加者は熱心に鑑賞し、伝統的な日本美術の一端を深く知る機会を持つことができた。美術分野の授業では、『日本の絵画と西洋の絵画』をテーマに、日本と西洋の絵画の違いを知る機会を持った。夏休み中に美術に関するテーマを各自一つ選び、2学期にそれぞれが、それに基づいた日本文化紹介のパワーポイントを作成。発表会を開いた。

地歴公民科

1学期は、茶道の歴史及びその精神についての学習・調査・発表の後、和室にて茶道体験を行った。そこでは、立ち方・座り方・歩き方、ふすまの開け閉め、お辞儀の仕方など和室での基本的な所作と、床の拝見の仕方や帛紗さばきなどの割り稽古を学び、「盆略点前」を練習した。さらに骨董商の解説による茶道具の鑑賞会を実施した。「日本文化のあらゆる集合体が茶道である」(骨董商)

3学期は、季節にあわせて「風炉」を用いたお点前を実施し、代表者による「濃茶」の作法を学んだ。

情報科

プレゼンテーションで使用するスライドを、受け手にとって明朗かつ印象深く残る作品として仕上がるよう、生徒一人ひとりの支援を行う。

- ・撮影した動画の分割・結合やテロップの挿入、色調の変化など編集の基本的な技術の習得
- ・フリー素材から選定した効果音、録音したナレーション音源の動画・スライドへの取り込み方法
- ・ナレーションに合わせた画像・文字・BGM等のスライド上での動作、画面切替のタイミングの調整

(4) 授業の成果と課題

今年度は授業中の伝統文化体験として日本舞踊を加え、また、希望者のみであるが能楽鑑賞にも参加したことで、より幅広い伝統文化に触れ、理解を深めることができた。プレゼンテーションにおいても英語を用いたものに昨年度よりも多く取り組ませ、英語による発信活動の充実をはかった。生徒の感想を見ても、日本の伝統文化について新たな知識を得て、興味を持ったことがうかがえる。来年度以降の課題としては、情報発信に向けての調査活動を、インターネットの情報に頼らず、自分自身で調査することにより多くの時間を割くことが求められる。

日本舞踊での成果(生徒の感想文より)

- ◆ 歌舞伎や能、狂言、そして日本舞踊などは今まで見たことがなかったので、実際にこんなに近くで踊りを見て、体験することができて嬉しかったです。日本舞踊は伝統的なものなので、自分では勝手に堅苦しいイメージを持っていましたが、3人の先生方が優しくおもしろくおしえてくださり興味がわきました。一つ一つの歩き方や目線によって演じる役の年齢や気持ちを表現していると聞き、驚きました。日本人なのに意外とちゃんと伝統的なものに対する知識がないことにも気付かされました。日本文化紹介の授業を通して、色々な日本のことを学ぶことができるので、日本人としての知識を深めていきたいです。機会があれば、外国の方に紹介することができればいいと思いました。



国際協働学習の記録・海外交流校（姉妹校・協力校）との取組

1 フィリピン・フィールドワークツアー

日 程：平成 30 年 3 月 18～21 日（日～水）

参 加 者：生徒 12 名、引率教員 2 名、OB サポーター 2 名

目 的：これまでに取り組んできた課題研究で導き出した問題解決のための仮説を、現地フィールドワークを行い、実証及び研究の方向性が正しいかどうかを検証する。

行 程：

月 日	活 動 内 容
3/18	関西国際空港 マニラ国際空港 マニラ市内の施設等見学（リサール公園、サンチャゴ要塞、フィリピン国立博物館等） 振り返りとシェアリング
3/19	午前：NPO「Haven For Children」訪問（施設見学、児童と交流） 午後：アテネオ大学訪問（課題研究発表、学内見学） 振り返りとシェアリング
3/20	終日：NPO「ソルト・パヤタス」プログラム参加 （事故慰霊碑に献灯、住民宅訪問、刺繍体験） 振り返りとシェアリング
3/21	ホテルにて討論協議会（各グループ課題研究の修正点を協議し、シェアリング） マニラ国際空港 関西国際空港

事前・事後学習：

（事前学習）

- 12月 8日 ソルト・パヤタス福岡事務局局長・井上広之氏による講演（1学年）
- 12月 フィリピンについて、関心のある分野を「教育・環境・経済・人権」から選択
フィリピンの現状、課題、原因（複数の視点）考えられる解決策をレポートにまとめる
（個人課題）
- 2月～ レポートを活用し、各グループで研究する「フィリピンの課題」を協議の上、決定
課題研究と発表準備
- 3月 6日 アテネオ大学・コルネリオ教授による講演（1学年国際科）
課題研究発表グループに対する指導助言と、1学年国際科に課題研究のポイントを助言
- 3月 コルネリオ教授の助言を受けて課題研究の修正、フィリピン・フィールドワークの発表準備

（事後学習）

- 5月 30日 国際科集会にて英語で活動報告
- 6月 9日 文化祭にて Likha 製品販売
- 1月 31日 成果発表会にて英語で活動報告

○引率教員より（生徒の変容等について）

2学期のGSIAの授業から、課題研究を始めた。生徒には初めての取り組みのため、課題発見、課題の原因、原因が引き起こされる要因など、1つずつ丁寧に調べることに取り組んだ。グループで1つの課題研究を作り上げるのに、約5か月を要した。（この時の課題研究で、フィリピンのことを取り上げているグループはいない）

2月の中間発表会後から、本格的にフィリピンに関する課題研究を始めた。SGH講演会、学年末考査等があり、GSIAの授業は2回しかないため、放課後等の時間を活用して、課題研究の準備を進めた。3月6日のコルネリオ

教授に課題研究を発表することを1つの目標とした。実質、準備に時間を費やせるのは2週間しかなかった。特筆すべきことは、このような時間の制約があるにも関わらず、課題研究に真摯に取り組んでいる姿である。フィリピン・フィールドワークツアーに参加する生徒が「リーダーシップ」を発揮し、各グループの指揮を執って課題研究を進めていた。またフィールドワークツアーに参加しない多くの生徒も、自宅学習日に登校し課題研究と一緒に作り上げている「サポートできる心」が養われていることに感動した。フィリピン・フィールドワークツアーそのものからの学びも当然大いにあるが、ツアーに向けた準備過程が生徒を成長させることを実感した。

生徒の感想

- ◆ このフィールドワークツアーでは、実際に現地の貧困層の方々と話したり、彼らを支援する活動をこの目で見たり、臭いを嗅いだりなど、自分の五感を使うことによって、インターネットでは知り得ない情報を得ることができました。もちろん日本での自分達の生活と比べたら、貧困層の方々の生活は経済面や衛生面などで豊かさを欠くものでした。ですが、彼らはその中でも幸せそうな表情を見せてくれることがありました。そのことは、自分の考えを改めてくれるもので、多くの日本の労働者も過剰な労働や人間関係に追われ、不幸せな状況にあるのではないかと思わせるものでした。貧困がすなわち不幸せであるという固定観念が、そのことで少し崩れたように思います。
- ◆ 私にとって、このツアーは初めての海外経験でした。その内容は観光や座学での研修ではなく、前述の通り、実際に自分の五感を用い、人々の考えを聞くことのできるものでした。ただの旅行では到底体験できないことです。その機会を得て、その知識を得られたことを、今後に活かしていきたいと思います。
私はこのツアーを通して、改めて気づかされることや新たな発見がたくさんあり、また自分の考え方が大きく変わった。ストリートチルドレンが保護されている施設を訪れたときには、今まで当たり前だと思っていた家族の存在はとてもかけがえのないもので、改めて人はたくさんの人の支えがないと生きていけないということを感じた。またゴミ山地域のパヤタス地区を訪れたときには、実際の現地の方の暮らしを見て、同じ時を生きるのにこんなにも違う生活をしているのかと衝撃を受けた。このような現実を見たとき、かわいそうと思うだけでなく、それを踏まえたくて、私達に今出来ることを考えることに意味があるのだと私は思う。そこで私は大学で国際問題についてもっと深いところまで学び、なぜこういった現状が今も解決されないままなのか、解決するためには何が必要なのかなどを追及して、将来的には今貧しい生活を強いられている人々の暮らしを少しでも改善できるような活動をしたい。



2 アメリカ提言ツアー

日 程：平成 30 年 3 月 16 日（金）～ 3 月 25 日（日） 9 泊 10 日

参 加 者：生徒 2 名、引率教員 1 名

- 目 的：1) 姉妹校との交流を深め、ホームステイを通じて自国文化を紹介し、異文化理解を促進する
 2) 各自の課題研究に関して、他国の見地から考え、内容を深化させる
 3) 四大陸高校生サミットの紹介・意見交換

事前準備：課題研究プレゼンテーション作成

神戸・学校紹介のプレゼンテーション作成

ベルビュー市役所、スターバックス本社見学のための折衝・準備など

行 程：

月 日	活 動 内 容
3月16日(金)	関西国際空港 仁川経由 シアトルタコマ国際空港 ホームステイ先へ
3月17日(土) ～19日(月)	ホストファミリーと過ごす シアトル観光など ○引率者 ベルビュー市教員研修参加
3月20日(火)	サマミッシュ高校 ホスト生徒と授業参加 ○副校長先生の案内による校内見学 ○ベルビュー市高校音楽祭の見学など
3月21日(水)	サマミッシュ高校 ホスト生徒と授業参加 ○言語の授業で神戸市と各自の課題研究についてプレゼンテーション
3月22日(木)	○Bellevue City Hall にて Disaster Management Section のスタッフか ら話を聞く ○Starbucks Seattle Headquarters の会社訪問・見学
3月23日(金)	○サマミッシュ高校 ホスト生徒と授業参加 ○Assembly 参加 ○放課後 サマミッシュ高校で社会貢献活動を行っている生徒と交流
3月24日(土) 25日(日)	○シアトルタコマ空港 仁川経由 関西国際空港 ○解散式

事後活動：3 学年合同の国際科集会で英語による活動報告（4 月）

サマミッシュ高校生徒をホストファミリーとして受入れ（7 月）



○参加者振り返り（国際科集会でのプレゼンテーションから）

One thing that impressed us the most was that there is an organization called “Community Emergency Response Team” in Seattle. The organization offers free training for anyone where participants can learn basic disaster response skills such as fire safety, rescue, and emergency first-aid. We were also impressed that the city hall distributes leaflets called “Map Your Neighborhood.” The leaflet shows important information for when disasters occur. And, it helps whole communities including people with physical disabilities to cooperate with each other in an emergency. We think there is a strong bond between people in the community. Because of this, they can rely on each other so they can feel safe. We felt their program is more progressive than those found in Japan.

In Starbucks headquarters, we found their unique corporate culture. A lot of workers who have children can use the child care center. They can concentrate on working without worrying their children. Also, Starbucks are willing to hire veterans and people with disabilities.

In terms of school life, we found many differences between Sammamish and Fukiai. One of them is that the students can experience many things such as caring for the elderly, graphic design, and glass crafting in classes called “Career and Technical Programs.” The facilities for those classes were also well equipped so they can have more hands-on experiences and use those skills when they choose jobs in the future. Another difference is diversity. There are many people from different countries and backgrounds. However, they accept and get along with each other. We think the most important thing to make a great world is to accept our differences and understand one another.

We had a great time in Seattle thanks to our lovely host families. They were always kind to us, and we appreciate them. We will never forget these memories.

○引率教諭振り返り

アメリカ提言ツアーは様々な意味で実り多い活動になった。

サマミッシュ高校は移民や難民を受け入れるなど、地元でも柔軟性・多様性のある高校として評判が高く、遠くの地域から通学している生徒も多い。様々な文化的・民族的・性的背景を持つ生徒が共に学ぶ空間を大切にするため、教員も生徒も違いを受け入れる体制が整っているように感じた。日本にいれば、学校の中でこのような多様性を経験することはまずない。そういった意味で、生徒は多くの違いを学ぶことができたと思う。

今回はフィールドワークとして、サマミッシュ高校以外にベルビュー市役所とスターバックス本社の二か所を訪問することができた。ベルビュー市役所では防災課の職員と意見交換し、地域に根差した防災体制を学ぶことができた。日ごろの備えや防災に関する考え方などは今までにない視点があって新鮮で、これらは、後の四大陸サミットに生かされることになった。また、スターバックス本社では、環境に配慮した製品・フェアトレード製品の推進や退役軍人・障害者の雇用、託児所の設置など、社会的責任を自覚する企業の姿勢を見ることができた。働く女性の生き方についても大いなる刺激を得たようである。

生徒は二人とも初めての海外ホームステイであったが、両家が非常に温かく向かい入れてくださり、よい思い出をたくさん作ることができた。サマミッシュ高校では、プレゼンテーションの場所や授業時間など細かな配慮を頂き、恵まれた環境で生徒が安心して活動に励むことができた。関わっていただいた全ての方々に感謝したい。



3 スウェーデン短期海外研修

日 程：平成 30 年 8 月 18 日（土）～29 日（水）

参 加 者：生徒 18 名（国際科 2 年 8 名、普通科 2 年 3 名、国際科 1 年 7 名）

引率教員 2 名

- 目 的：1) 現地姉妹校の生徒やホストファミリーとの交流を通してスウェーデン文化を経験し、文化交流の意義を体感し、国際性を養う。
- 2) 日本文化を英語で紹介することで自国の文化を再発見し、現地の人々との交流を通して英語の表現力を高める。
- 3) 葺合高校の SGH で行っている研究について発表し、意見交換を行うことで研究を深める。

日 程：

	月日	活動内容
1	8/18（土）	関空出発、オランダ経由 ストックホルムに到着
2	8/19（日）	ストックホルム 1 日市内観光 ストックホルム市庁舎、宮殿、ノーベル博物館等を観光、旧市街地を探索
3	8/20（月）	フェニックス高校着：学校交流 1 ホストファミリーと対面
4	8/21（火）	学校交流 2 ホストファミリーと課外活動
5	8/22（水）	学校交流 3 各種授業参加、SGH 研究発表、ディスカッション
6	8/23（木）	学校交流 4 各種授業参加、日本文化紹介
7	8/24（金）	学校交流 5 各種授業参加
8	8/25（土）	ホストファミリーと観光
9	8/26（日）	週末 ホストファミリーと過ごす
10	8/27（月）	学校交流 6 各種授業参加、フェアウェルパーティー
11	8/28（火）	フェニックス高校出発、イエテボリ発 オランダ経由
12	8/29（水）	関空に到着

○生徒日誌より

8 月 19 日（日）

「ストックホルム市庁舎をはじめ、宮殿やノーベル博物館などの観光名所を巡り、ガイドの三浦さんの解説もあり、スウェーデンの歴史や文化背景を深く学ぶことができました。ただただ歩いているだけでも芸術的な建築が至る所にみられ、日本とは違う建築様式をしっかりと見学しました。昼食と夕食は市内のレストランで頂き、ストックホルムの雰囲気を感じた非常に価値のある濃い 1 日になりました。体調を崩さないようにしながら、ストックホルムという素晴らしい街への感謝の気持ちを忘れず、明日からの新しい場所でのホームステイや学校訪問で様々なことに挑戦していこうと思います。」



ストックホルム観光



ストックホルム観光



ホストファミリーとの対面

活動の概略：

ストックホルムでスウェーデンについての歴史や文化を説明してもらい、スウェーデンについて学習した後、姉妹校フェニックス高校でホストファミリーと対面となった。最初は緊張していた生徒たちも日ごとに親しくなり、本当の家族のように接してくれるホストファミリーと過ごした8日間はかけがえのない思い出となったようである。また、姉妹校で日本文化を紹介し、多くの現地高校生たちによさこいソーラン節やダンスを披露し、日本文化紹介の授業では二人羽織、少林寺拳法、葺合体操、坊主めくり、書道、インスタント日本食品のような日本文化を体験してもらった。また、2年生がSGHの研究で行っている、“Matahara”、“Equality at Evacuation Center”について発表し、現地高校生とディスカッションを行った。

課題研究テーマ：

福祉、教育制度と女性進出、日常のテクノロジー、スウェーデンと日本のごみ処理の違い、Gender Equality、児童虐待、主婦の活躍と地域のつながり、高齢化社会

○生徒課題研究感想より

- ◆ 今回のスウェーデン夏季海外研修では、この課題研究を始めとする様々な文化、生活様式の違いなどを実感できた。スウェーデンでは、本当に国民に様々なサービスが提供されていると知った。私たち日本人は日本の福祉システムに慣れていて、今までの制度もあるからすぐにスウェーデンのような制度に変えることは難しいと思うが、私はスウェーデンの福祉制度に賛成する。なぜなら、「平等」の考え方から改善できる課題が多いと思うからだ。例えば、貧富による教育の質の差がでなかつたり、病気だからのびのびと生活できないという事がなかつたり、国民の生活が国家によって保証されていると考えられるからだ。国と国民の間に信頼があるからこそスウェーデンの福祉は成り立っていると思った。
- ◆ 全体的な感想としては、人との関わりの中で学ぶことばかりだった。ホームステイでは家族の一員のように接してくれる暖かさ、姉妹校にいけば国を超えても繋がる同年代の高校生の優しさを感じられた。お互い母国語は異なるが「英語」という互いが理解できるたった一つの言語を駆使して繋がり合えた事でより一層英語を話す楽しさや喜びを感じられた。今回学んだことを元に、これからの物事の考え方や将来の生き方を考えていきたい。



授業



日本文化紹介



ソーラン節の披露



集合写真



ランチ



最終日

4 オーストラリア提言ツアー

日 程：平成30年7月25日（水）～8月1日（水） 7泊8日

参 加 者：生徒2名、引率教員1名

- 目 的：1) オーストラリアのメルボルンにある姉妹校、ウエストボーン・グラマースクールで課題研究を発表し、現地高校生とのディスカッションやリサーチをすることで課題研究を深める。
- 2) オーストラリアの現地高校生との交流やホームステイを通して文化交流の意義を体感し、異文化に対する理解深め、国際性を養う。
- 3) 現地校での授業を体験することで、実践的な英語力を高めると同時に、日本語の授業で箕合高校や神戸、日本文化について紹介し、自国について英語で発信する力を養う。

プログラム：

7月25日（水）	26日（木）	27日（金）	29日（土）～30日（日）	30日（月）～
移動 関西国際空港 シンガポール メルボルン	メルボルン空港到着 学校訪問 ホストシスターと 対面、授業に参加 プレゼンテーション、 ディスカッション	学校訪問 授業に参加（全日）	ホストファミリーと 過ごす	学校訪問 授業に参加（全日） 全校集会にて神戸 についてのプレゼン テーション
31日（火）	8月1日（水）			
学校訪問 メルボルン空港 出発	移動 メルボルン シンガポール 関西国際空港到着			

○現地での活動の様子



課題研究についてのプレゼンテーション



プレゼンテーション



プレゼンテーション



全校集会でのプレゼンテーション



ホストファミリーと

事前準備：

5月初旬に選考会が行われ、2名の参加生徒が選ばれた。その後、1学期期末考査終了後まで各自授業内で行っている課題研究についてのリサーチを深めた。また、代表としてオーストラリアへ行くため、クラスやグループ内での意見をまとめ、更にオーストラリアの現状や現地の生徒たちの意見など、どのような情報を自分たちが必要とし収集すべきであるかを話し合った。情報を収集し統計を取るための最適な手段を選ぶことも初めての経験であるため、難航していた。

期末考査終了後から本格的にプレゼンテーションの準備に取りかかり、仕上げの作業へと移行した。4月から始めた課題研究の内容を、出発の7月末までに発表ができる段階にまでまとめていくことは難しかったが、代表として渡豪する責任感から生徒たちは諦めることなく積極的な取組を見せた。

○引率教員の振り返り

今回の姉妹校訪問で葺合高等学校の代表として2人の生徒が、銃社会にまつわる問題、食糧廃棄問題に向けた提言を行った。出発前にそれぞれの研究テーマに沿ってリサーチを行い、その途中経過をオーストラリアで発表し、ウエストボーン生からの意見や助言を聞き、さらに複数のクラスからアンケートを取ることで、それぞれの課題研究の内容を深めることができた。また、現地の中高校生との交流やホームステイを通して日本では学ぶことができないような貴重な経験をし、大変実りのある1週間であった。

ウエストボーン・グラマースクールとの連携プログラムは複数あり四大陸高校生サミットでの訪問も含めると、1年間で複数の生徒たちがお互いの学校を行き来することになる。自分たちが訪問する時間だけではなく、再度関わる機会があることは生徒たちにとって非常に良い経験になっているようである。

また日本語を学んでいる生徒がいるため、そこでの交流も大きな刺激となる。実際に日本語の授業に参加することで、第二言語として日本語を学んでいる様子を見学することができ、互いの文化について学びあえる時間となった。



日本語を学ぶ生徒たちとの交流

互いに習得した言語を用いながらの意見交換をしている

○生徒の感想

- ◆ 今回のSGH研修で僕は葺合高校入試面接時からの目標であった、必ずSGHプログラムに参加し自分を磨きたいという強い思いを実現することができました。本当に様々な経験をさせていただき実りある1週間でした。オーストラリアの生徒たちの前で自分の課題研究の発表をさせていただき、生徒だけでなく先生方からも貴重な助言をいただくことができ、今後の研究に反映させていかなければならないと強く思いました。また全校集会でも神戸についてのプレゼンテーションをさせていただいたことは、とても緊張しましたが貴重な経験となりました。
- ◆ 今回のSGH研修は忘れられない貴重な体験となりました。短い期間でしたが、英語の面だけでなく、一回りも二回りも成長できたと思います。オーストラリアの学校の生徒は、とても明るくフレンドリーで、人見知りの私にも優しく接してくれる人がほとんどでした。時には自分の英語力がついていかず、自分の思っていることがしっかり伝わらないということもありましたが、いつも親身になって私の話に耳を傾けてくれました。特に課題研究のプレゼンテーションの際には、オーストラリアの学生たちから様々な質問や意見をもらう場面がありました。中には難しい質問もあり、その場ではうまく答えられないものもありましたが、今後の研究に生かしていきたいと思いました。

5 イオンワンパーセントクラブ アジアユースリーダーズ

対 象：国際科2年生

実 施 日：平成30年8月19日(日)～25日(土)

開催場所：インドネシア ジャカルタ

参 加 者：中国：9名、マレーシア：9名、インドネシア：15名、タイ：9名、日本：34名、ベトナム：9名

(計6か国、85名)

○イオンワンパーセントクラブ/アジアユースリーダーズとは

イオングループの主要企業が税引前利益の1%相当額を拠出し、「次代を担う青少年の健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」を3つの柱として活動しているクラブ事業であり、その達成に向けた多くのプログラムを持つ。その一つがアジアユースリーダーズであり、次代を担う日本と海外の学生が一堂に会し、開催地の環境や社会問題をテーマにディスカッションを行い、問題の改善に向け、高校生は市民活動を、大学生は政策を現地の政府に提案。また、多国間での議論を交わすことで、価値観の多様性について理解を深めることを目的としたものである。

○スケジュール

- 8月19日 出発、オリエンテーション、講義、ウェルカムパーティー
講義 「食料革命における若者の重要な役割」
- 8月20日 講義、SMAN78 高等学校訪問・ディスカッション
講義 「インドネシアと他の国々における栄養と食生活の変遷」
講義 「インドネシア食生活について」
講義 「インドネシアにおける食生活(保健省提供の資料より)」
- 8月21日 講義、ヤクルト視察・レクチャー
講義 「インドネシア食生活について」
講義 「インドネシア食生活をふまえた食料多様性プログラム」
- 8月22日 イオンモール BSD CITYにてヒアリング活動・モールについてショートレクチャー
ヒアリング活動
- 8月23日 グループディスカッション
- 8月24日 成果発表 ホスト国インドネシア代表生徒への提言引き継ぎ式
表彰式 ディナーパーティー
- 8月26日 帰国



○本校の取り組み

応募から参加者決定まで

昨年度の1月にこの企画を知り、本校が実施しているSGH事業の取り組みと目標に合致していることから応募し、日本からの派遣校8校のうちの一つに選ばれ参加の運びとなった。

5月に本年度国際科2年生に参加者を募集、今回のプログラム内での主となるテーマは「食育」。プログラム概要とテーマを生徒に提示したところ、課題研究の中で食や水の問題に取り組んでいるものもいたため、予想以上の応募者があり、本プログラムへの志望理由書と日本語と英語での面接を行い、4名を選考した。

当日までの準備

7月21日(土)にお茶の水女子大学附属高等学校で全体説明会が催され、日本からの参加生徒34名が初めて顔合わせをすることとなった。日本からの参加校は以下の通り：

神戸市立萇合高等学校	お茶の水女子大学附属高等学校
広島大学附属福山高等部	関西学院千里国際高等部
石川県立金沢泉が丘高等学校	東京学芸大学附属高等学校
北海道登別明日中等教育学校	秋田県立秋田南高等学校



簡単な自己紹介と各学校紹介の後、食育に関するディスカッションをアジア6か国の海外生徒と実施する上での基本的知識やその目標がイオンワンパーセントクラブ本部より提示された。

その後、本校4名の参加生徒は夏休み中に学校に数回集合し、日本とインドネシアの食生活と食文化に関して自ら設定した課題に関して研究を進める。パワーポイントを用いて研究内容のプレゼンテーション発表を行い、互いの理解を深め、今回のプログラム内で海外生徒と確認を必要とする事項を見極めた。

現地における活動

先にスケジュールで示した通り、プログラムの前半ではインドネシアの有識者による講義が数回行われ、また企業や学校への訪問を実施している。本プログラム内で特筆すべきものは、5日目のヒアリング活動である。ジャカルタのイオンモールを訪れ、各国の高校生で構成された5人程度のグループで行動し、モールに来ている一般の購買者に、事前に準備をした食育に関する質問やアンケートを実施して、現地の情報を直接入手する社会学手法でのヒアリング活動を行うものである。



6日目以降のプログラムでは、上記活動で得たデータを中心にグループ内で考察、研究を重ねることで、食育における問題点を引き出し、その解決策を提案することをテーマとしたプレゼンテーションを作成し、プログラム前半に講義をした有識者にその内容を発表した。



6 プレサミットの取組

対 象：国際科2年生

○プレサミット開催にむけて

例年 SGH の成果発表として7月に「KOBE 四大陸高校生サミット at Fukiai」を本校にて開催している。サミット内では海外5ヶ国の高校生が集合して、持続可能な社会の形成に向けて高校生が協働する方策を討論し、それを共同声明文としてまとめ上げることを大きな目標としている。そして来年度からは SGH 事業の5か年が終了することもあり、今までの四大陸サミットを改編したインターナショナルコンファレンスを実施予定である。その前段階の取組として、本年度12月10日から13日に実施された台湾修学旅行2日目の11日に、訪問先の姉妹校である台中市立台中第一高級中学校の言語コース生徒約60名と、本校国際科75名がプレサミットという名で、互いに作成している課題研究のプレゼンテーション発表とそれに関するディスカッションセッションを行った。

○課題研究とプレサミットに向けた準備

SGH 事業の中で、最も重要なものの一つである課題研究を本校では2年次より本格的に始めており、当該生徒である国際科の全生徒がそれぞれ研究を進め、論文として英語でまとめている。また、その研究内容を大学等の機関で生徒一人ひとりに発表させる機会をもたせており、今回の訪問時には、4名の生徒が2人ずつの2チームに分かれ、それぞれプレゼンテーションを現地で発表することとなった。この4名は今回のプレゼンテーションに立候補して選ばれている。

テーマは「海洋に浮かぶ廃棄物」と「珊瑚礁の消滅と環境保存」についてである。4月に各生徒が自ら研究テーマを選び、リサーチクエストを立てて進めていた課題研究が、11月の段階では「データと分析」のセクション作成まで完成しており、台湾でのディスカッションに備えて新たな「提案」のセクションの作成に取り掛かるとともに、今までの研究の見直しと発表用スライドや文章の推敲をして臨むこととなった。これは、本校は目標として設定した SGH 事業の中で生徒に身につけさせる能力の「データ分析から提案と実践に結び付けていく力」、また「効果的なプレゼンテーションを準備して発表する力」を養う機会となっている。

○当日のプレゼンテーションとディスカッション

事前の台中市立台中第一高級中学校と連絡を取り合い、それぞれの学校が約7分のプレゼンテーションを2つずつ、計4つ行い、その後に各学校の生徒が混じった6人程度のグループに分かれてディスカッションをしてその後全体で意見を共有する予定を計画していたが、前に予定されていたオープニングセレモニーが一時間程度延長して行われたこともあって、計画を変更しながら行うこととなった。各プレゼンテーションの後にその内容について周りの生徒たちと数分のディスカッションをし、それを全体で共有していくという流れに変更して行われ、台中市立台中第一高級中学校からは「LGBTの現状と今後」に関するプレゼンテーションが発表された。急遽変更された中でのディスカッションではあったが、生徒たちは両校ともに意欲的な姿を見せ、本校から発表を含めた4つのプレゼンテーションに対して、積極的に意見を交わし合い、情報を交換するとともに、来年度に実施されるインターナショナルコンファレンスに向けての方向性や今後の取組に対する姿勢を共有することができた。

○インターナショナルコンファレンスに向けて

現在、来年度実施予定のインターナショナルコンファレンスを詳細は未決定の部分も多い。今回の訪問で生徒たちが身につけたことを昇華させられる機会となるべく、この体験を生かした計画を考察して盛り込み、グローバル人材育成に向けて確固たる体制を構築していくことが求められる。